

地域づくりネットワーク埼玉県協議会会員情報

団体名	川越蔵の会（川越市）	
DATE	代表者	原 知之（はら ともゆき）
	事務局及び情報誌等 送付先	原 知之
		〒350-0063 川越市幸町7-1
		TEL 049-222-0989
	構成員	194人（男154人 女39人 会社等1）
	活動日	不定期
	活動場所	活動日に都合のつくところをお願いしています。
情報誌	蔵詩句タイムス（年間2～3回発行）	
設立のきっかけ	蔵の会は、川越をなんとかしよう、見直そうという気運が高まる中、「住民が主体となった町づくり、商業の活性化による町並み保存」を目的に住民だけでなく広く市民や専門家などが集まり、昭和58年に発足しました。3つの目標である、(1)住民が主体となった町づくり、(2)北部商店街の活性化による景観保存、(3)町並み保存のための財団形成を掲げて様々な活動をしています。	
活動の内容	蔵の会の活動には、事業部、運営部、デザイン部、広報渉外部、また、女性の部である女蔵部によって行われる部会活動のほか、定例行事の開催などがあります。部会活動の1つであるデザイン部会は、メンバーが建築家で構成されており、商店の改装や看板のデザインなどについて相談に乗っています。定例行事としては、住民が主体となって町並み保存を目的に策定した「町づくり規範」を運用するため、月1回開催される「町並み委員会」に委員として参加したり、毎年10月に開催される「川越まつり」に、これまで蔵の会がまちづくりについて意見を聞いたりしてきた専門家を招待したりしています。また、昭和62年から、会員が市内で新築・改築等された建物等について「川越の景観にふさわしい」と推薦したもののの中から数点を選び、「蔵詩句大賞」として表彰しています。	
エピソード	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年に開催された第16回全国町並みゼミ川越大会では、3日間にわたり延べ3000名の参加者を得て開催、蔵の会が中核となって成功裡に終わりました。 川越は蔵造りの町並みで知られるようになりましたが、蔵の会が行ってきたワークショップが発端となり、今の町づくり活動に発展してきました。川越の町づくりには、何らかのかたちで私たちのメンバーが関係しています。 	
今後の計画目標	これから余暇を楽しむ時間が増えていく中で、蔵の会が目指すのは「都市型観光地」です。地元の人々だけではなく、「東京圏」という、もっと広い範囲の人々の余暇時間にいかに関わっていくかが重要な問題です。そのために、市と協力しながら、市の進めていく計画が横道にそれていかないように、しっかり見ていきたいと思っています。	
年間行事	5月	川越曲水の宴
	6月	総会（講演会やシンポジウムを併せて行っている。）
	7月	チャリティゴルフコンペ（収益金は財団準備資金に）
	10月	川越まつり招待
	11月	お茶の会
	12月	除夜の鐘（「時の鐘（川越市指定文化財）」を借りて行う）
		※ その他蔵詩句大賞（推薦候補により1から2年おき）、町並み相談所、シンポジウムの開催、設計コンペ、町並み委員会への出席、会合（頻繁に）などを実施。
これまでの歴史	昭和58年	川越蔵の会発足
	昭和59年	日本建築学会関東支部との共催により、東京、三田建築会館でシンポジウム開催
	昭和62年	「川越の景観にふさわしい」建物、イベント等を表彰する「蔵詩句大賞」をはじめ
	平成5年	第16回全国町並みゼミ川越大会開催
	平成9年	「蔵の街かるた」発行
		川越市で「小江戸サミット」開催
	平成11年	大正浪漫の夢づくり設計コンペに協力
	平成11年	グッドデザイン賞アーバンデザイン賞受賞
	平成12年	「平成の二畳台目茶室」設計コンペ
	平成14年	NPO法人として法人登記
平成16年	地域再生モデル事業受託	
平成17年	都市再生モデル事業受託 第48回埼玉文化賞「社会文化部門」受賞	
団体PR	蔵造りの町並みとして著名な川越の町並みファンクラブのような団体です。蔵造りに住む人、建築に携わる人、町づくりの研究者等、川越の町に感心をよせる人の集まりです。市内をはじめ、都内や遠く関西まで会員がいます。町づくりを頑張っている人たちの応援や、相談にのっています。	